令和８年１０月３０日

保護者様

船橋市立行田東小学校
校長　　生井　敏昭

令和８年度　全国学力・学習状況調査の結果分析について

令和８年度全国学力･学習状況調査における本校の結果分析についてお知らせいたします。職員一同で情報を共有し、本校の教育活動にいかしていきたいと思います。今後ともよろしくお願いします。

なお、調査の結果は児童の学力や教育活動の全てを計るものではありません。調査の結果は、児童の学力や学校における教育活動の一面であることを申し添えます。

１．教科に関する調査より

（１）国語

○「知識及び技能　（２）情報の扱い方に関する事項」に関わる問題を得意にしている。

●漢字の定着が不十分である。また、記述式の正答率も低かった。

（２）国語の補足説明

・「知識及び技能　（２）情報の扱い方に関する事項」に関わる問題は、千葉県や全国の平均を上回った。このことから、情報と情報との関係や語句と語句との関係の表し方についての理解が深まっていると考えられる。今後もこの結果が継続できるように取組を進めていきたい。

・全部で２問の「記述式」の問題は、どちらの問題とも正答率が低くなった。問題の趣旨と照らし合わせると、「引用しながら自分の考えを工夫して書くこと」や「文章を読んで理解したことに基づき、自分の考えをまとめること」を苦手にしていることが分かる。そのため、国語の学習では前述した点が改善されるような授業作りを目指していくとともに、他教科の授業においても「書く力の定着」を意識した授業を展開していく必要があると考える。

（３）算数

○「B 図形」と「C 変化と関係」に関わる問題を得意にしている。

●記述式の問題の正答率が低かった。

●解答時間が足りなかった、問題の解法が分からなかった等の理由により、無解答率が高かった。

（４）算数の補足説明

・「B 図形」と「C 変化と関係」に関わる問題は、千葉県や全国の平均を上回った。例年、本校が苦手としてきた図形領域の問題に関して、今年度は大きな改善が見られた。特に図形領域の学習では、基礎基本の定着を大切にし、具体物等を操作させることで実感を伴った授業を継続して行った成果が出たと考える。また、これは、「伴って変わる二つの数量の関係に着目する問題」や「割合に関する問題」に対する理解が深まっていることが大きな理由として考えられる。また、「C 変化と関係」の問題の結果より、単位量当たりの大きさや割合に関する意味も正しく理解していることが分かる。

・「記述式」の問題において３問中２問が千葉県や全国の平均を下回った。問題の趣旨と照らし合わせると、「分数の大小判断の理由を、数や言葉を用いて記述すること」や「答えの根拠を表の中の数と言葉を用いて記述すること」を苦手にしていることが分かる。国語の調査結果が示すように、なぜその答えになるのか「根拠を示して自分の言葉で説明する力」が定着していないことが原因だと考えられる。このことから、算数の授業では、単に答えを出すだけではなく、その答えになる理由を書いて説明させる機会を多く設けることで、記述式問題に対応する力を身に付けていく必要があると考える。

２．生活習慣や学習環境等に関する児童質問調査より

（１）傾向の分析

○規則正しい生活を送っており、しっかりと朝食を食べている児童が多い傾向がある。

○家庭学習習慣が身に付いており、家庭で積極的にＩＣＴ機器を活用している児童が多い傾向がある。

●学校全体として、ＩＣＴ機器の使用頻度が低い。

●道徳の授業において、友達と対話的な学習ができていると感じている児童が少ない傾向がある。

（２）傾向の分析の補足説明

・「毎朝の喫食に関する質問」や「毎日の就寝時刻に関する質問」、「毎日の起床時刻に関する質問」への回答結果より、規則正しい生活を送り、しっかりと朝食を食べている児童が多いことが分かった。
・「平日や休日での家庭学習時間に関する質問」や「家庭学習時にＩＣＴ機器を使う時間に関する質問」への回答結果より、家庭学習の習慣が身に付いている児童が多く、家庭で積極的にＩＣＴ機器を活用している状況が分かった。
・「今までの授業におけるＩＣＴ機器の活用頻度に関する質問」への回答結果より、学校の授業でのＩＣＴ機器の使用頻度は低いことが分かった。昨年度も同様の結果が出ているため、授業内におけるＩＣＴ機器の有効な活用方法を全職員で共有し、今まで以上に積極的に活用していくことが必要である。今後も、ＩＣＴ機器を学力向上のためのツールとして活用できるよう取組を進めていきたい。
・「道徳の時間でのグループ活動に関する質問」への回答結果より、道徳の授業において、友達と対話的な学習ができていると感じている児童が少ないことが分かった。グループ活動を通して友達の考えを知り、自分の考えをより深めるためにも主体的で対話的な道徳の授業作りを目指していく必要があると考える。

３．改善のための方策について（継続事項も含む）

・低学年では朝学習の時間を設定し、読み・書き・計算の基礎基本の定着を図る。
・朝学習や東タイムを有意義に活用し、漢字の学習指導をしっかりと行う。また、小テストなどを有効活用する。
・国語の授業を中心に各教科で、「引用しながら自分の考えを工夫して書く」場面や「文章を読んで理解したことに基づき、自分の考えをまとめる」という経験を多く積ませ、書く力の定着につなげる。
・算数の授業では、単に答えを出すだけではなく、その答えになる理由を書いて説明させる機会を多く設けることで、記述式問題に対応する力を身に付けていく。
・各教科の授業において、ＩＣＴ機器が有効活用できる場面を模索し、学力向上のためのツールとなるよう取組を進める。
・各教科の授業において、自分の考えをまとめて書く時間をしっかりと設ける。
・道徳の授業では、グループ活動を通して、様々な考えに触れる機会を多く設け、自分の考えをより深められるようにする。